
暴気

佐伯鋭気

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

暴気

【Nコード】

N3483I

【作者名】

佐伯鋭気

【あらすじ】

感情の明文化による消化行為

細い階段の途中に一匹の猫が、その大きな体を見せつけるように幅を利かせていた。真っ直ぐと正面を向き、薄汚い灰色の伸びすぎた体毛の中から覗く黄色い目は、やや光を欠いているようにも思われたが、強烈に私を捕らえていた。私が階段を昇るためには、この不気味な猫を跨いで越えるか、その場から追い払うしかない。しかし、この猫、退く気など毛頭無さそうであり、それどころか私を通さまいと身構えているようにも見える。

しばらく私は猫と目を合わせ、この獣の腹の居所を探ろうとした。奥の見えない眼に吸い込まれるように、私の焦点は次第に定まらなくなり、眼の奥の光の届かない陰部をみるようになっていた。

その時だ、胃の下あたり腹の奥底でもぞもぞと何かが胎動するのを感じた。それは徐々に、胃を肺を食道を鼻腔を眼孔を黒く染め上げ、脳へと昇りつめ、私にある映像を見せた。猫の顔面に左足が入り、足の甲に強く打ちつけられた猫は吹っ飛びそのまま階段の手すりの間をすり抜け数メートルしたのアスファルトへと叩きつけられた。頭を下に落下したため、無残にも頭は割れ、血が溢れだしているのが見えた。

そこではっとして、私は自分が目を閉じていることに気づいた。目を開くと猫はまだそこに凜として佇み視線は微動だにしない。瞬間、熱が全身をめぐり、咄嗟に私は足を出していた。完全に猫を捕らえるつもりだったが、足は空を切り、行き場を失っていた。探すと、猫は数段上から私を見下している。また熱は込み上げきた。次こそはと思いい、振りあがっていた足を私は上段へと乗せ、階段を上 گرفت。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3483i/>

暴気

2010年10月30日21時48分発行